

ことは興味をよぶ。

4. $n=82$ の有性生殖四倍体であるもの。シシオクマワラビの 1 種類。品種 シシオクマワラビは母種オクマワラビと同一数の染色体をもつ。

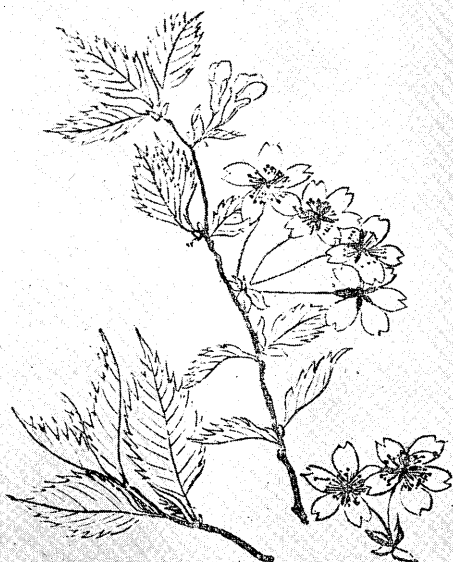
5. 雑種性が確認されたもの。フジクマワラビ (2x), フジオシダ (3x), ナンゴクオオクジャク (4x), アイヌタマシダ (3x) およびメズラシクマワラビ (4x) の 5 種類。いずれも倉田により雑種と推定されている 稀産種である。各雑種とその推定両親との間には染色体数に関して食い違いはなく、その雑種説は支持されるものである。

6. ナガサキシダモドキはナガサキシダ (オオミツデ) の三倍性 サイトタイプではないかと考えられること。ナガサキシダモドキは $2n=123$ の三倍体で、その減数分裂および孢子形成時に、一価染色体の出現、奇形孢子形成がみられきわめて雑種である。この種を、栗田はナガサキシダと未知種との雑種と考え、他方、百瀬は前葉体の研究からナガサキシダの突然変異型とみた。筆者は昨年、ナライシダで、これに 2x, 3x および 4x の 3 種類のサイトタイプがあり、このうち二倍体と四倍体の交雑によって生じたと思われる三倍体が、細胞学的に明瞭な雑種の諸相を示すのを観察した。ナガサキシダモドキの場合も、この三倍体 ナライシダの場合との類似性を思わせるし、しかもその片親に 妥当する種がまだ 発見されていないことも考えあわせると、そこには、ナガサキシダモドキはナガサキシダ ($n=82$ の四倍体だけで、二倍体は見付かっていないが) の三倍性サイトタイプであると考えられる余地があるものとおもわれる。

○チシマザクラの別名 (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: On the Japanese name for *Prunus nipponica* var. *kurilensis* Wilson.

エトロフザクラという名がチシマザクラの別名であることは知れわたっていることで、いまさら話題にする価値も必要もないことだが、この称呼は北海道の方では古くから用いられたようで、北海道系統の本、たとえば北海道主要樹木図譜 (1927)、また最近の出版にかゝる北方植物園 (朝日新聞社編) などにも、別名としてであるが用いてある。この名は植物総覧第一版 (1925) 以後の名彙類ではたいていのっている。そのためこの名を知らない人はないようである。しかし、この名は相当に古くから用いられているものらしい。だから先占権がどれにあるとかなんとか、そんなつまらないことにもものいいをつけようとするのではなく、たゞ古くこんな呼名もあったというだけのことである。さてそのよりどころは屋代弘賢の古今要覧稿 (文化 14?) にこの図がのせてあることを知ったからである。この本の原本は見られないから見ていないが図書刊行会本によつてのことである。そうしてこの図をチシマザクラと見てよいなら、このエトロフザクラは同一物と思う。もしそれでよいなら江戸で文化十二年四月二十八日に咲いたことになる (念八日の念は廿のことだとなっているから 28 日とよむ)。当時すでにエゾとは交通があったが松浦竹四郎のような人が種子をもってきたのかもしれない。

古今要覧稿卷第二百八十八 草木部



エトロフ 桜
エトロフ 桜四月末花を開く單瓣白色葉鋸齒ふかし山
桜の一種なるべしある人の曰蝦夷の人の矢に此桜の
一年に生長したる條にて作れるものありといへり
エトロフ産文化十二年乙亥
四月念八日縮開圖

ところでこの図は何人の筆か知るよしもないが、例の岩崎灌園は文化十一年二月十九日に古今要覧稿の手伝を命じられている（日本博物学年表）から、この図が灌園の手になったものと思われる。以上すべて推測であるが、この図の余白に「エゾの人の矢に此桜の一年に生長したる條にて作れるものあり」の記事は興味あるかき込である。

（東邦大学薬学部）

○ハトスとカトスヘデラ（久内清孝） Kiyotaka HISAUCHI: A newly given name for *Fatshedera*.

こんな名でよばれている植物があることを耳にした。そこで東京都内の植物商を一巡したところ、*Fatshedera lizei* Hort. として扱われている、Lize 社で作った人工雑種であることが判明した。かつて、奥山春季君からヤツデと西洋キジタとの人工種があると聞いていたので、それを思い出し、*Exotica* の写真とくらべて確認することができた。また最新園芸大辞典にもかいてあるのに気づいた。ところでこの和名がどうなっているかわからなかったところ、上記の名を拾った。よく考えると、この属の名に因んで出来たものと思われるが、ハトスが簡明でよいからこれを使ったらと思う。つまり *Fats* がハトスに *Fatshedera* がカトスヘデラになったものらしい。これだから和名の意味はうかつにきめられないことになる。ついでながら、この植物を最初に日本に持帰られたのは猪熊泰三氏で、本人からきいたところによると、それは昭和32年（1957）で、その翌年業者が斑入りのものを輸入したという。（東邦大学薬学部）